

大佐飛山地生物群集保護林

群集-04

| | |
|------------------|--|
| 管轄森林管理局・署 | 関東森林管理局 塩那森林管理署 |
| 所在地 | 栃木県那須塩原市 |
| 面積 | 8, 152. 35 ha |
| 設定年 | 2006(H18)年 |
| 保護林の概要 (設定目的) | 高山性のハイマツが標高1, 700m付近から出現することや、ミヤマナラの分布の南東限となっていること、亜高山性植生の著しい下降現象がみられることなど、冬季の季節風による雪庇の発達をもたらす特異な植生の分布に特徴が見られるため、これらの森林を保護・管理することにより、森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保護、森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に資するため設定した。 |



登山道脇のブナ・ミズナラ林群落
(2019.11.01撮影)



ブナ・ミズナラ群落(2019.11.01撮影)

モニタリング調査概要

| | |
|------|--|
| 実施年度 | 2014年、2019年 |
| 調査項目 | 樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査、動物調査等 |
| 調査手法 | 森林詳細調査として、ブナ群落、ダケカンバ群落、アスナロ群落において調査プロットを合計3箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。動物調査として、調査プロットまでの経路に2つの調査ルートを設定し、保護林内における出現種を把握。 |
| 結果概要 | ニホンジカの痕跡が複数確認されており、調査プロットでは低木層、草本層ともに、ニホンジカの採食圧による植被率の低下が見られる。上層木を構成するブナ、アスナロ、ダケカンバ等は健全に生育しているが、稚樹・実生の個体数が少ない。ニホンジカによる採食圧により、前回調査時より下層植生への植被率低下が見られ、今後の植生変化を注視する必要がある。 |

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。